


分光測色計 設定ツール CM-CT1

Ver.1.51

取扱説明書

 ご使用前に必ずお読みください。



KONICA MINOLTA

⚠ 安全上の注意

ご使用の前にこの取扱説明書や測定器、コンピューターの取扱説明書をよくお読み
のうえ正しく安全にお使いください。

本書で使用しているアプリケーション名などの正式名称

(本文中の表記)	(正式名称)
Windows 10	Microsoft® Windows® 10 Pro Operating System
Windows 11	Microsoft® Windows® 11 Pro Operating System
Bluetooth	Bluetooth®

商標について

- ・ Microsoft、Windows、Windows 10、Windows 11、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ Bluetooth のマークとロゴは、The Bluetooth SIG, Inc. の登録商標で、ライセンスに基づき使用されています。
- ・ その他、本書に記載の会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。

本書に関するご注意

- ・ 本書の内容の一部または 全部を無断で転載することは、禁止されています。
- ・ 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- ・ 本書は内容について万全を期していますが、万一不審な点や誤り、記載漏れでお気づきの点がございましたら、ご購入の販売元までご連絡ください。
- ・ 本書の指示に従わずに本製品を運用した結果発生した事故については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本書で紹介している画面キャプチャは CM-17d 接続時のものです。他の測定器を接続した場合は表示される内容が異なります。

はじめに

本ソフトウェア（以下 CM-CT1 と記載）は分光測色計とコンピューターを接続することにより、

1. [測定器設定](#)（一部本体に依存する内容は除く）
 2. [データ出力](#)
 3. [校正データ設定](#)
 4. [リモートコントロール](#)
- をすることができます。

ソフトウェアの使用規定

CM-CT1 の使用規定は、インストール時にオンライン表示される「ソフトウェア使用許諾契約」ダイアログに書かれています。使用許諾契約に同意された場合のみ、CM-CT1 をインストールしていただけます。

使用上の注意

- CM-CT1 は、Windows 10 または Windows 11 用のアプリケーションソフトウェアです。なお、どの OS も CM-CT1 には含まれておりません。CM-CT1 をインストールする前に、上記の OS がコンピューターにインストールされている必要があります。

システム環境

■ 使用条件

OS :	Windows 10 Pro 64 bit Windows 11 Pro
CPU :	2.0 GHz 相当以上
メモリ :	2GBYTE 以上
ハードディスク :	システムドライブに 10GB 以上の空きが必要
ディスプレイ :	解像度 1024×720 以上 /16Bit カラー以上の表示が可能なディスプレイ
その他 :	USB ポート（測定器との接続用に必要）

■ 制御対象

CM-26dG, CM-26d, CM-25d, CM-25cG, CM-23d, CM-17d, CM-16d, CM-700d, CM-700d-U, CM-600d, CM-5, CR-5, CM-M6

■ 表示言語

日本語、英語

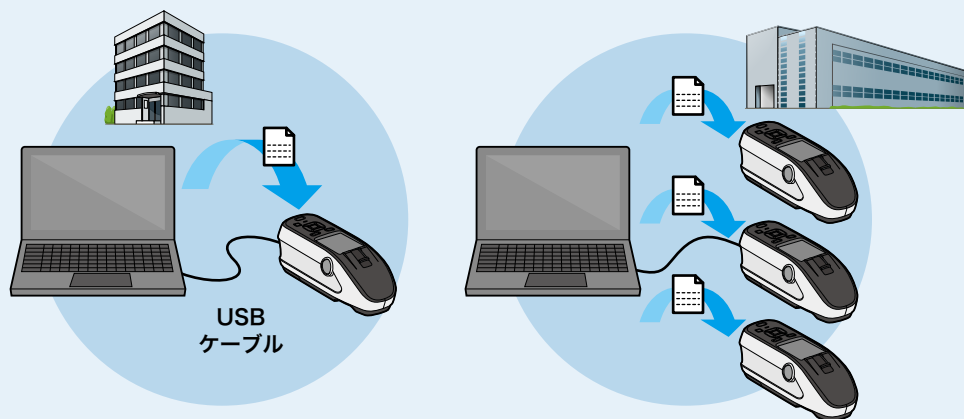
目次

はじめに	2	エラー内容と対処方法について	20
ソフトウェアの使用規定	2		
使用上の注意	2		
システム環境	2		
CM-CT1 でできること	4		
測定器設定	4		
校正データ設定	4		
データ出力	4		
リモートコントロール	4		
すぐ使うには	5		
CM-CT1 の起動と終了	5		
◆起動と通信開始	5		
CM-17d シリーズ、CM-26dG シリーズ、CM-25cG、または CM-M6 を ケーブルで接続する場合	5		
CM-700d シリーズ、CM-5、または CR-5 をケーブルで接続する場合	5		
Bluetooth で接続する場合	5		
◆通信終了とソフトウェア終了	6		
表示言語の変更	7		
測定器設定を行う	8		
◆手順について	8		
ユーザーインデックスとユーザークラス	9		
◆作業者への操作制限設定を行う (ON OFF 表示)	10		
リモートコントロール	11		
無線設定	12		
Adhoc	13		
Infrastructure1 ~ Infrastructure4	14		
Bluetooth	15		
さらに使いこなすには	16		
複数台の同じ測定器に同じ測定条件を設定する	16		
リモートコントロールでできること	17		
データ出力でできること	18		
白色校正板、光沢校正板を新しく購入したら	19		

CM-CT1 でできること

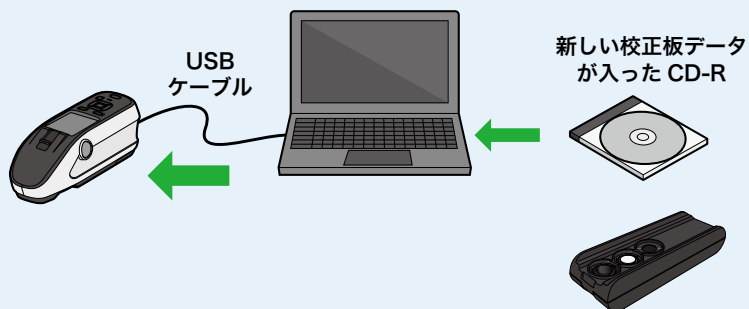
測定器設定

測定器の表示内容や測定条件などの環境設定、測定器作業への操作制限設定、無線 LAN や Bluetooth 接続設定などをコンピューターから入力することができます。また、設定内容をファイルにエクスポートすることで、複数の測定器に同じ設定内容を入力することができます。



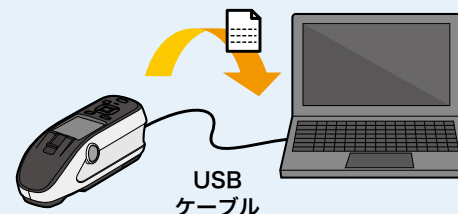
校正データ設定

新しく白色校正板または光沢校正板を購入された場合には、測定をする前に校正板データを測定器に記憶させる必要があります。



データ出力

測定器に記録されているデータ（分光反射率や光沢値（CM-26dG、CM-25cG のみ））を CSV ファイルに保存することができます。



リモートコントロール

コンピューターに測定器*の液晶画面をリアルタイムで表示させて、本体のキー操作相当の制御をコンピューター上で行うことができます。（電源ボタン、測定径切替スイッチ除く）

また、ネットワークを利用しリモートデスクトップなどで測定器と接続しているコンピューターにアクセスすることで離れた場所からでも測定器を制御することができます。


* CM-26dG シリーズ、CM-17d シリーズ、CM-25cG、CM-M6 のみ



すぐ使うには

CM-CT1 の起動と終了

◆起動と通信開始

- 1 デスクトップのショートカットアイコン  をダブルクリックまたは、プログラムメニューから「KONICA MINOLTA」 - 「分光測色計 設定ツール CM-CT1」を選択します。
SpectraMagic NX2 がインストールされている場合、SpectraMagic NX2 Launcher で「設定ツール」アイコンをクリックすることで CM-CT1 を起動することもできます。

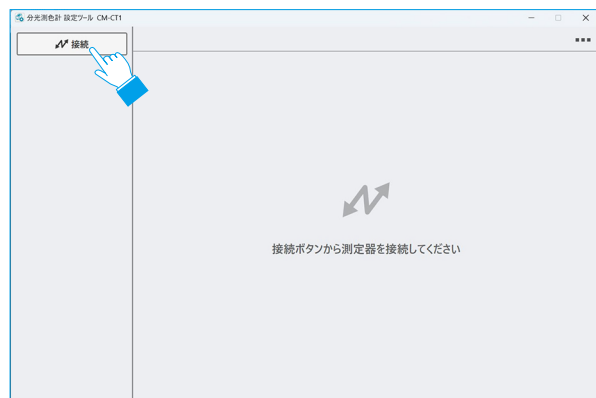
メモ インストール後、CM-CT1 を始めて起動させた場合、表示言語は英語です。日本語に変更したい場合は先に [表示言語の変更 \(P.7\)](#) を実行してください。

- 2 測定器とコンピューターを USB ケーブルまたは Bluetooth で接続します。

メモ 無線 LAN 接続を使用することはできません。

メモ USB ケーブルで接続することを推奨します。Bluetooth 通信は可能ですが、通信が大変遅くなります。

- 3 接続ボタンをクリックします。



■ CM-17d シリーズ、CM-26dG シリーズ、CM-25cG、または CM-M6 をケーブルで接続する場合

- 1 検知された接続可能な測定器がコンボボックスに表示されます。プルダウンより接続したい測定器を選択して「接続」ボタンをクリックします。



■ CM-700d シリーズ、CM-5、または CR-5 をケーブルで接続する場合

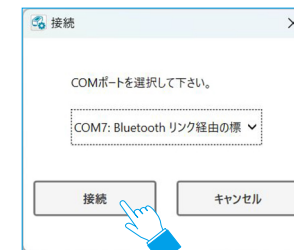
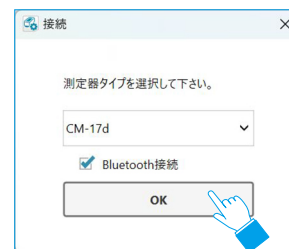
- 1 プルダウンより接続したい機種を選択して「OK」ボタンをクリックします。
- 2 プルダウンより COM ポートを選択し、「接続」ボタンをクリックします。



■ Bluetooth で接続する場合

・先に測定器とコンピューターのペアリングを済ませておいてください。

- 1 プルダウンより接続したい機種を選択して、「Bluetooth 接続」にチェックを入れて、「OK」ボタンをクリックします。
- 2 プルダウンより COM ポートを選択し、「接続」ボタンをクリックします。



メモ 接続したい測定器が表示されない場合は、次のことを確認してください。

- ・測定器の電源が入っていること
- ・測定器とコンピューターが正しく接続されていること

すぐ使うには (つづき)

4 操作画面について

測定器との通信が正常に開始されると、測定器で設定されている情報が CM-CT1 上に表示されます。



- ① 測定器の Serial No とバージョンの表示
- ② 測定器の校正情報の表示
測定器を購入後、校正を実施せずに接続した場合はゼロ校正日のみ表示されます。
- ③ CM-CT1 機能タブ。表示されるタブは機種によって異なります。
選択すると画面が切り替わります。選択されているタブの文字は青色表記になります。
- ④ 選択されている機能タブの項目グループ別のサブタブ
選択すると画面が切り替わります。選択されているサブタブの文字は青色表記になります。表示されるサブタブは機種によって異なります。

上の画面では「測定器設定」タブが選択され、「システム」の画面が表示されています。

メモ CM-CT1 と測定器が通信状態になると、測定器の画面には「通信中」と表示され、測定器単体操作はできません。

◆通信終了とソフトウェア終了



切断ボタンをクリックすると測定器との通信が解除され、接続開始時のダイアログに戻ります。


「x」をクリックすると、測定器の通信が解除されると同時にソフトウェアも終了します。

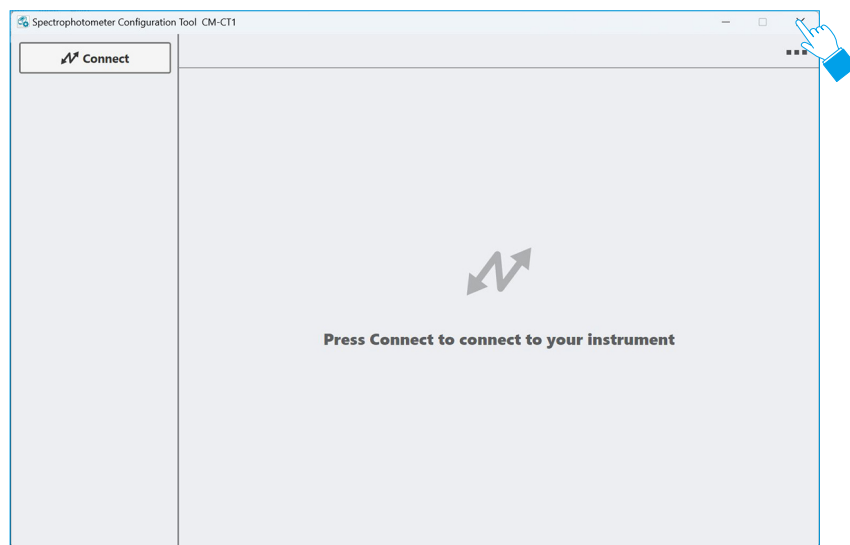
- ・ 測定器の "Wake ON モード" が ON に設定されている場合、CM-CT1 と切断されるまたは CM-CT1 を終了すると、測定器の電源が自動的に OFF になります。

すぐ使うには (つづき)

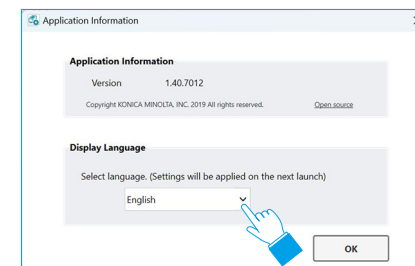
表示言語の変更

インストール後、CM-CT1 を始めて立ち上げたときの表示言語は英語です。
表示言語を日本語に変更することができます。

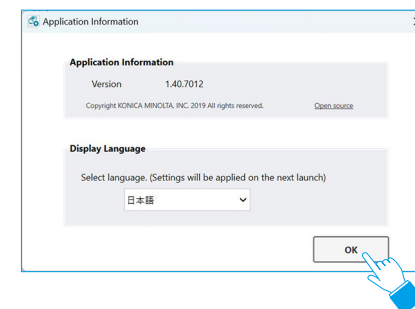
- 1 画面右上の  をクリックし、アプリケーション情報ダイアログを開きます。



- 2 プルダウンより日本語を選択します。



- 3 OK ボタンをクリックします。



CM-CT1 を終了し、再度起動させてください。
日本語から英語に変更したい場合も同じ作業をしてください。

すぐ使うには (つづき)

測定器設定を行う

◆手順について

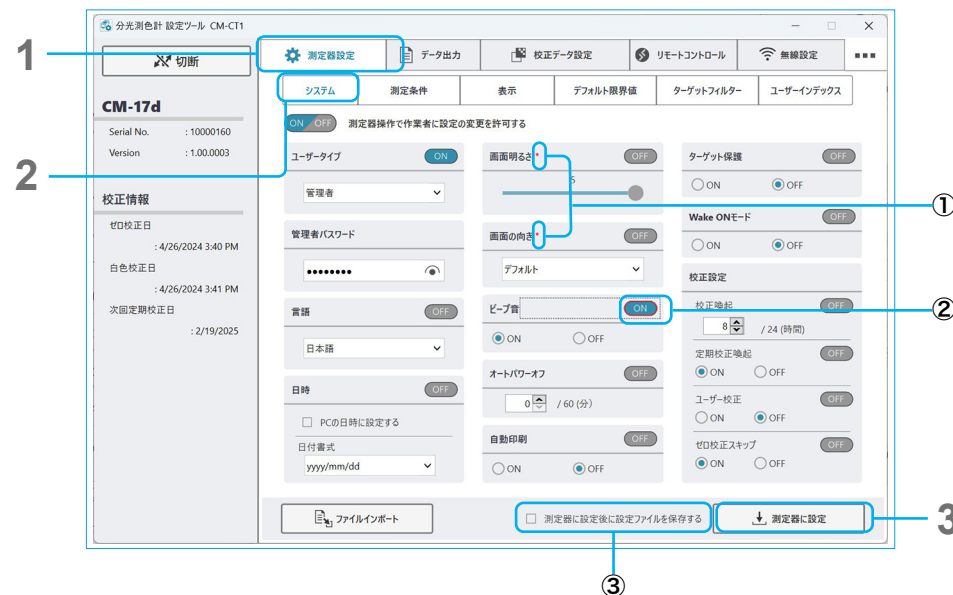
1 「測定器設定」タブを選択します。

2 変更したい内容に対応したサブタブを選択します。

各設定内容の詳細につきましては、測定器の取扱説明書をご参照ください。

3 任意の内容に変更し、「測定器に設定」ボタンをクリックします。

- ① 設定値を変更するとメニュー名の横に赤い*が表示されます。
- ② ON/OFF ボタンを変更すると、ボタンの外枠が赤色になります。
- ③ 測定器に設定した内容をファイルに保存しておきたい場合は、「測定器に設定後に設定ファイルを保存する」にチェックを入れてから「測定器に設定」ボタンをクリックしてください。
測定器への内容反映後、「測定後設定ファイルを保存」のダイアログボックスが表示されますので保存先を選択し、任意の名前を付けて保存してください。



- メモ
- ・「管理者パスワード」は8桁の数値を入力してください。👁️をクリックすると、数値が表示されます。
 - ・「画面の向き」の「デフォルト」が出荷時の画面向きと同じです。

すぐ使うには (つづき)

ユーザーインデックスとユーザークラス

- ・ この機能は CM-17d シリーズ、CM-26dG シリーズ、CM-25cG, CM-5, または CR-5 のみに使用できます。
- ・ 有効な SpectraMagic NX2 ライセンスが必要です。

ユーザーインデックスタブで測定器のカスタム画面に表示するユーザーインデックスとユーザークラスを設定できます。

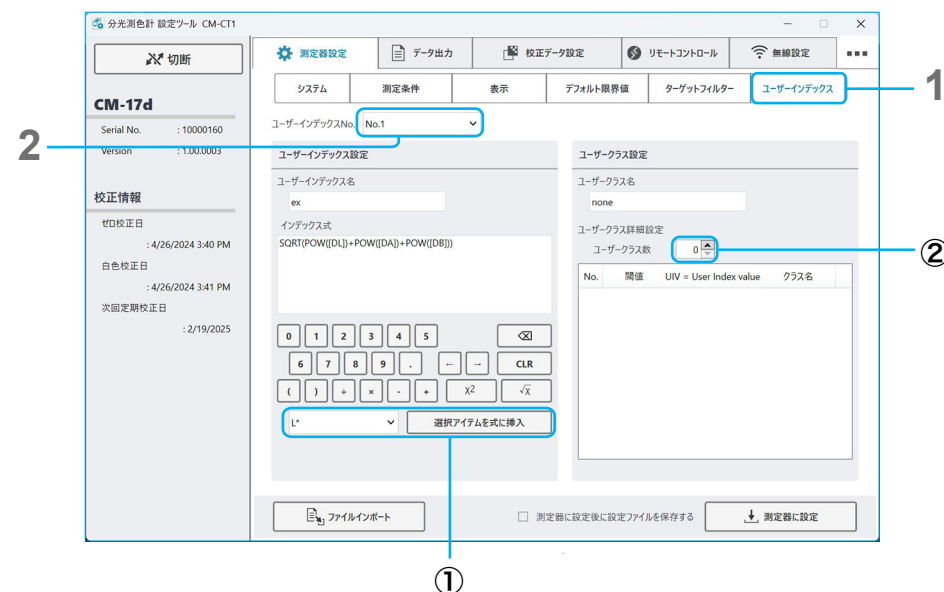
1 「ユーザーインデックス」サブタブを選択します。

2 ユーザーインデックス No. をプルダウンに選択します。

3 ユーザーインデックスとユーザークラスを設定します。

設定できる機能の詳細に付いては、測定器取扱説明書の付録を参照してください。

- ① アイテム（値）を式に挿入するには、そのアイテムをプルダウンに選択して、「選択アイテムを式に挿入」ボタンをクリックします。
- ② ユーザークラス数を直接入力するまたは上下ボタンをクリックします。
- ③ クラスの上閾値を設定します。この値はすぐ下のクラスの下閾値になります。



すぐ使うには (つづき)

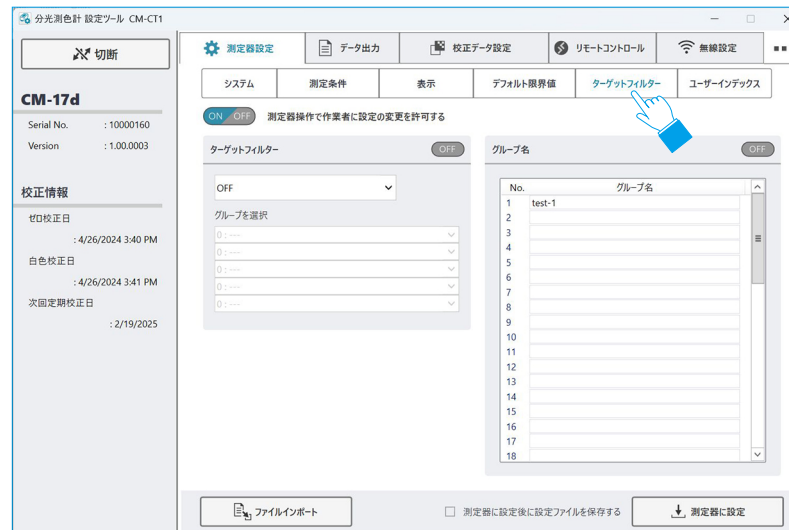
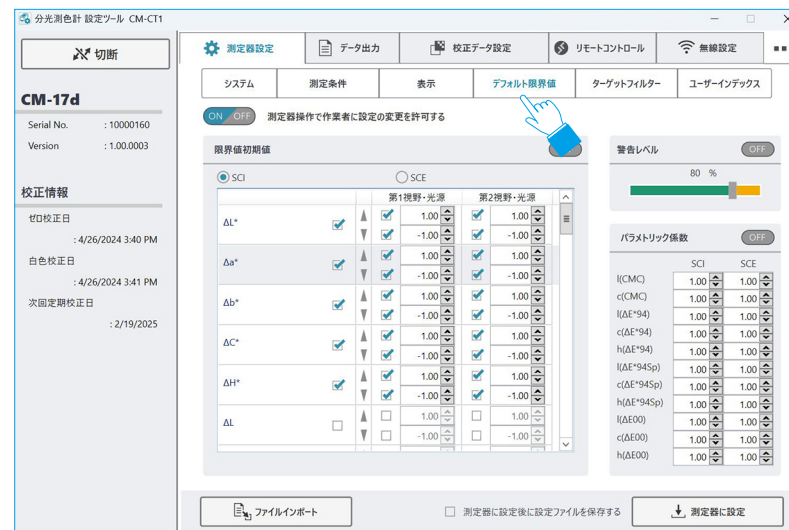
◆作業者への操作制限設定を行う (ON OFF 表示)

・この機能は CM-17d シリーズ、CM-26dG シリーズ、CM-25cG、または CM-M6 のみに使用できます。

ON / OFF 上でクリックすることで切り替わります。「ユーザータイプ」が「作業者」である場合に、測定器単体で内容の変更を許可するか否かを設定します。

OFF となっている項目は「ユーザータイプ」が「作業者」の場合、測定器単体では内容の変更ができません。

デフォルトでは、システムタブの「ユーザータイプ」以外すべて OFF となっています。



すぐ使うには (つづき)

リモートコントロール

・この機能は CM-17d シリーズ、CM-26dG シリーズ、CM-25cG、または CM-M6 のみに使用できます。

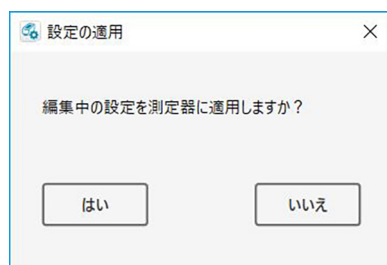
CM-CT1 上で、測定器の液晶画面を確認しながら、キー操作と同等の作業を行うことができます。

1 「リモートコントロール」タブを選択します。

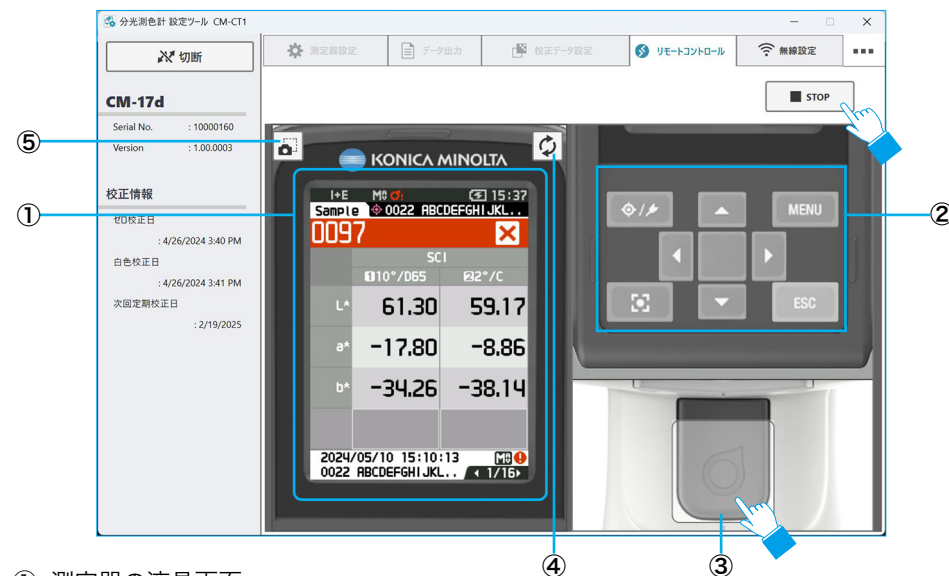
2 「START」ボタンをクリックします。



「測定器設定」タブの内容を測定器へ適用する確認ダイアログが表示されます。



3 適用させたい場合は「はい」を、そうでない場合は「いいえ」をクリックします。



- ① 測定器の液晶画面
測定器の液晶画面と同じ画面が表示されます。
- ② 測定器のキーと同等
画面上の各ボタンをクリックすることで、測定器のキー操作と同じように測定器を操作することができます。
測定器の液晶画面と同じ画面が表示されます。
- ③ 測定器の測定キーと同等
画面上の測定ボタンをクリックすることで、測定が実行されます。
測定器の液晶画面と同じ画面が表示されます。
- ④ 測定器の液晶画面を CM-CT1 の①の領域に反映させる
リモートコントロールでの通信中は測定器単体操作が可能になります。
しかし、リモートコントロール状態のまま、測定器の単体操作を実行した場合には、測定器の液晶画面が CM-CT1 に反映されません。
測定器の単体操作後の液晶画面を CM-CT1 に反映させたい場合に実行してください。
- ⑤ CM-CT1 の①の領域のスクリーンショットを取得する
CM-CT1 の①の領域が 1 回光り、クリップボードにコピーされます。

メモ 液晶画面に表示されている内容の詳細やキー操作については測定器の取扱説明書をご参照ください。

4 リモートコントロールを終了する場合は「STOP」ボタンをクリックします。

メモ 測定器の液晶画面に「通信中」と表示され、測定器単体での操作はできなくなります。

すぐ使うには (つづき)

無線設定

- この機能は、別売付属品の無線 LAN/Bluetooth モジュールがインストールされ、ファームウェアがそのモジュールに対応している CM-17d シリーズ、CM-26dG シリーズ、CM-25cG、または CM-M6 にのみ使用できます。

■ 無線接続手段

Adhoc (アドホック)、Infrastructure1 ~ Infrastructure4、と Bluetooth の 3 種類の無線接続手段を設定できます。使用環境によって選択してください。

- AdHoc または Infrastructure1 ~ Infrastructure4 を使用する場合、コンピューターに無線 LAN アダプターが搭載されている必要があります。
- Bluetooth を使用する場合、コンピューターに Bluetooth アダプターが搭載されている必要があります。

Adhoc (P.13)

Adhoc 接続を使用する場合、測定器がアクセスポイントとして機能するので、コンピューターの無線 LAN アダプターが測定器に直接接続します。

- Adhoc を使用する場合、各設定を範囲内で自由に設定できます。
- Adhoc を使用する場合、同無線 LAN アダプターでインターネットに接続することは不可能です。

Infrastructure1 ~ Infrastructure4 (P.14)

Infrastructure1 ~ Infrastructure4 接続を使用する場合、測定器とコンピューターを同じ無線 LAN アクセスポイントに接続して、コンピューターと測定器の接続はその無線 LAN アクセスポイント経由に行います。

- 測定器を無線 LAN アクセスポイントに接続するには各ネットワーク設定情報が必要です。その情報が持っていない場合は、御社の IT 担当者にお問い合わせください。
- Infrastructure1 ~ Infrastructure4 を使用する場合、同無線 LAN アダプターでインターネットに接続することは可能です。

Bluetooth (P.16)

Bluetooth 接続を使用する場合、ソフトウェアと測定器を接続する前にコンピューターと測定器の接続 (ペアリング) をあらかじめ行う必要があります。

- Bluetooth 接続の通信距離は Adhoc または Infrastructure1 ~ Infrastructure4 の通信距離よりも限られ、測定器とコンピューターが使用される環境に影響されることがあります。

◆ 「無線設定」 タブ

1 「無線設定」タブを選択します。

2 設定したい無線設定サブタブを選択します。

- 無線設定を保存されているファイルからインポートするには、「無線設定ファイルのインポート」をクリックします。
- 無線設定を測定器に書き込む時にファイル保存もするには、「測定器に無線設定を書き込む」ボタンまたは「テスト接続」ボタンをクリックする前に「測定器に設定後に無線設定をファイルに保存する」にチェックを入れてください。
- このサブタブに設定されている無線設定を測定器に書き込むには、「測定器に無線設定を書き込む」ボタンをクリックします。



■ Adhoc (アドホック)

Adhoc 設定で測定器をネットワークアクセスポイントとして設定します。この設定を使用する時は、コンピューターネットワーク設定で測定器に直接接続することができます。

- ・ Adhoc 接続を使用する場合、コンピューターの同じ無線アダプターからインターネットに接続することはできません。

1 「無線設定」タブで「Adhoc」サブタブを選択します。



2 機器情報を設定します。

- ・ 設定変更が特に必要ない場合は、初期設定を使用できます。

① 「セキュリティ設定」をプルダウンリストから選択します。

- ・ 「WPA-PSK(AES)」は、セキュリティの種類「WPA」・暗号化の種類「AES」としても知られています。
- ・ 「WPA2-PSK(AES)」は、セキュリティの種類「WPA2」・暗号化の種類「AES」としても知られています。

② 認証キーを入力します。測定器に接続する際にコンピューターで入力するパスワードです。

- ・ 認証キーの長さは 8 文字以上 63 文字以下です。入力する時は 8 文字以上になるまでテキストボックスはピンク色です。

- ・ 使用できる文字は以下の通りです。

!"#\$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
[\\]^_`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|}~

使用できない文字は入力しても受け入れません。

③ IP アドレスを入力します。

- ・ 入力範囲：0 ~ 255.

④ サブネットマスクを入力します。

- ・ 255 255 255 0 のままにしておくことをお勧めします。

A. 測定器に無線設定を書き込んで完了する場合

A-3. ダイアログ右下の「測定器に無線設定を書き込む」ボタンをクリックします。設定内容が測定器に書き込まれ、「完了」のメッセージボックスが表示されます。

このタブの無線設定は完了です。

B. 測定器に無線設定を書き込んでその設定で無線 LAN 接続の確認を行う場合

B-3. 「テスト接続」ボタンをクリックします。右のメッセージボックスが表示されます。

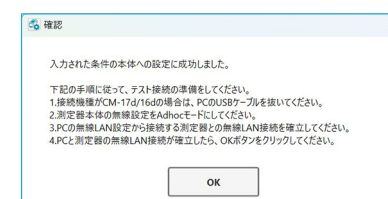
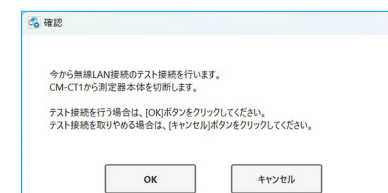
B-4. 「OK」ボタンをクリックし、接続確認を開始します。

B-5. ダイアログに設定されている内容が測定器に書き込まれ、右のメッセージボックスが表示されます。

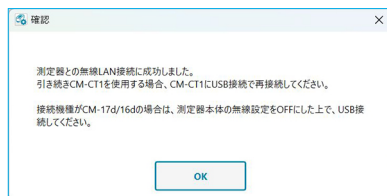
- ・ ステップ B-10 を行うまでに「OK」をクリックしないでください。

B-6. 測定器が USB ケーブルで接続されている場合、USB ケーブルを測定器から抜いてください。

B-7. 測定器で「設定」>「通信設定」>「無線設定」を「AdHoc」に設定します。



- B-8. 測定器で「設定」>「通信設定」>「無線 LAN 情報」で測定器の SSID を確認します。
- B-9. コンピューターの Wi-Fi 設定（Windows 11 の場合は「設定」－「ネットワークとインターネット」－「Wi-Fi」－「使用できるネットワーク」）で測定器の SSID を選択し、「接続」ボタンをクリックして承認キーのテキストボックスにステップ 2-②で入力した認証キーを入力します。
- B-10. 測定器とコンピューターの Adhoc 接続ができたなら、ステップ B-5 で表示されたメッセージボックスの「OK」ボタンをクリックします。
- B-11. 測定器との Adhoc 接続確認を行います。成功すると、右のメッセージボックスが表示されます。



- ・ CM－CT1 を引き続き使用する場合、測定器の「無線設定」を「OFF」にして、測定器とコンピューターを USB ケーブルまたは Bluetooth で再接続してから CM-CT1 で再接続します。

■ Infrastructure1 ～ Infrastructure4

Infrastructure1 ～ Infrastructure4 設定を行うと、測定器が無線 LAN アクセスポイントに接続できるようになり、コンピューターがそのアクセスポイント経由で測定器と接続することができます。

- ・ Windows に有線と無線でネットワーク設定されていると有線を優先して検索します。
- ・ 無線ネットワークが複数設定されていると Windows で優先に設定されている方を検索します。

無線 LAN アクセスポイント情報の確認

無線 LAN アクセスポイントに接続する時、以下の情報が必要です。

「SSID」：ネットワークの名前

「セキュリティ設定」：コンピューターで「セキュリティの種類」として表示されます。

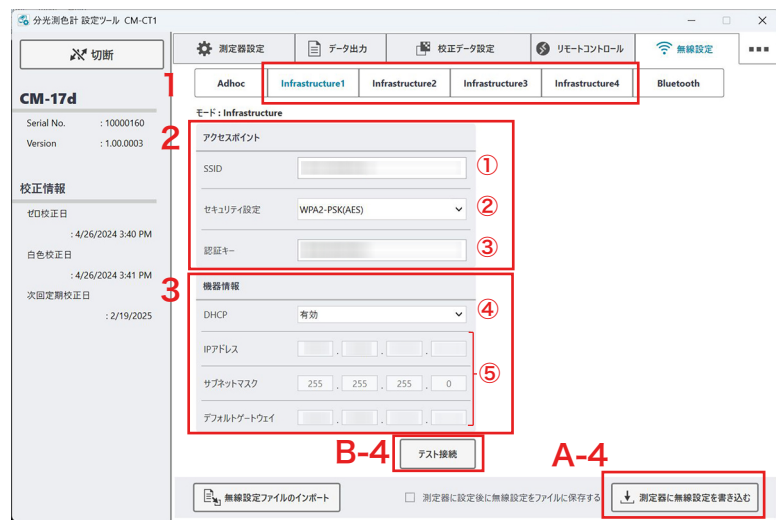
- ・ 「WPA-PSK(AES)」は、セキュリティの種類「WPA」・暗号化の種類「AES」としても知られています。
- ・ 「WPA2-PSK(AES)」は、セキュリティの種類「WPA2」・暗号化の種類「AES」としても知られています。
- ・ 「WPA3-PSK(AES)」は、セキュリティの種類「WPA3」・暗号化の種類「AES」としても知られています。

「認証キー」：コンピューターで「Wi-Fi セキュリティキー」または「ネットワークセキュリティキー」として表示されます。ネットワークに接続するためのパスワードです。

Windows 11 の場合、この情報は「設定」－「ネットワークとインターネット」－「Wi-Fi」で確認できます。この設定は以下のページのステップ 2 に使用します。

- ・ コンピューターが現在に接続されているネットワークを使用する場合、そのネットワーク名をクリックするとネットワークのプロパティが表示されます。「Wi-Fi セキュリティキーの表示」の右側に「ビュー」をクリックすると Wi-Fi セキュリティキー（認証キー）が表示されます。
- ・ 「Wi-Fi セキュリティキーの表示」の表示が表示されていない場合は、ネットワークアクセスが別手段で管理されている。御社の IT 担当者にお問い合わせください。
- ・ 他のネットワークを使用する場合、「既知のネットワーク管理」をクリックして、表示される SSID（ネットワーク名）のリストに使用するネットワークをクリックします。選択されたネットワークのプロパティが表示されます。そのネットワークのセキュリティの種類（セキュリティ設定）を確認するには「高度な Wi-Fi ネットワークプロパティ」をクリックして、表示されるワイヤレスネットワークのプロパティダイアログの「セキュリティ」タブをクリックします。「パスワードの文字を表示する」をクリックするとネットワークセキュリティキー（認証キー）を確認できます。

- 1 「無線設定」タブで設定する「Infrastructure」（「Infrastructure1」～「Infrastructure4」）のサブタブを選択します。



- 2 前ページの無線 LAN アクセスポイント情報の確認で調べましたアクセスポイント情報を設定します。

- ① 使用するアクセスポイントの「SSID」を設定します。
- ② アクセスポイントの「セキュリティ設定」（セキュリティの種類）をプルダウンリストから選択します。
- ③ アクセスポイントの認証キー（Wi-Fiセキュリティキー）を入力します。

3 機器情報を設定します。

- ④ 「DHCP」のプルダウンで「有効」または「無効」を選択します。
「有効」を選択することをお勧めします。「有効」に設定した場合は、測定器の IP アドレスとアクセスポイントのサブネットマスク・デフォルトゲートウェイが自動的に設定されます。
・「有効」を選択した場合は以下の⑤をスキップします。
- ⑤ 「無効」に設定した場合は、測定器の IP アドレスとアクセスポイントのサブネットマスク・デフォルトゲートウェイを入力します。これらの適切な値に設定するためにネットワークの詳細な知識が必要です。

A. 測定器に無線設定を書き込んで完了する場合

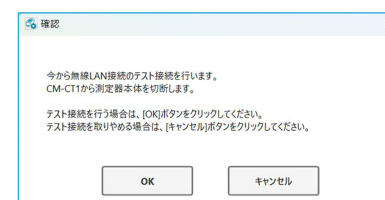
- A-4. ダイアログ右下の「測定器に無線設定を書き込む」ボタンをクリックします。設定内容が測定器に書き込まれ、「完了」のメッセージボックスが表示されます。

このタブの無線設定は完了です。

B. 測定器に無線設定を書き込んでその設定で無線 LAN 接続の確認を行う場合

- B-4. 「テスト接続」ボタンをクリックします。
右のメッセージボックスが表示されます。

- B-5. 「OK」ボタンをクリックし、接続確認を開始します。



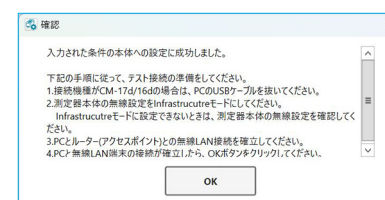
- B-6. ダイアログに設定されている内容が測定器に書き込まれて、右のメッセージボックスが表示されます。

- ・ステップ B-10 を行うまでに「OK」をクリックしないでください。

- B-7. 測定器が USB ケーブルで接続されている場合、USB ケーブルを測定器から抜いてください。

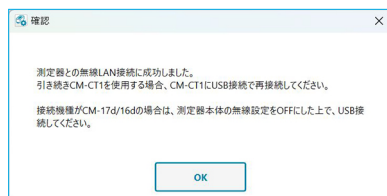
- B-8. 測定器の「無線設定」をステップ 1 で設定した「Infrastructure ○」に設定します。測定器はそれに設定された SSID に接続されます。

- ・SSID に接続できなかった場合、コンピューターからルーターの設定をアクセスし、ルーター設定の「プライバシーセパレーター機能」、「ネットワーク分離機能」、「SSID 離機能」を使用しないように設定して改めて接続を試してください。



- B-9. コンピューターの Wi-Fi 設定 (Windows 11 の場合は「設定」－「ネットワークとインターネット」－「Wi-Fi」－「使用できるネットワーク」) で同じ SSID に接続します。
- B-10. ステップ B-8 と B-9 両方の接続ができれば、ステップ B-6 で表示されたメッセージボックスの「OK」ボタンをクリックします。

- 4 測定器との接続確認を行います。成功すると、右のメッセージボックスが表示されます。

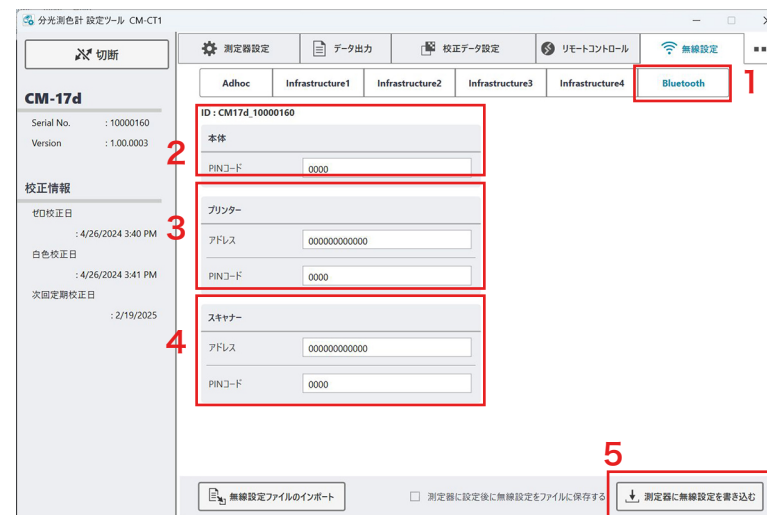


- CM-CT1を引き続き使用する場合、測定器の「無線設定」を「OFF」にして、測定器とコンピューターをUSBケーブルまたはBluetoothで再接続してからCM-CT1で再接続します。

Bluetooth

測定器を Bluetooth 経由でコンピューター、プリンターまたはスキャナーの Bluetooth 設定をできます。

- Bluetooth 設定は測定器本体操作で設定することもできます。
- 1 「無線設定」タブで「Bluetooth」サブタブを選択します。



2 本体

コンピューターから接続する時の PIN コードを入力します。

3 プリンター

プリンターのアドレスと PIN コードを入力します。

4 スキャナー

スキャナーのアドレスと PIN コードを入力します。

- 5 入力が完了したら、ダイアログ右下の「測定器に無線設定を書き込む」ボタンをクリックします。

設定内容が測定器に書き込まれ、「完了」のメッセージボックスが表示されます。

さらに使いこなすには

複数台の同じ測定器に同じ測定条件を設定する

CM-CT1 で入力した内容をファイルにエクスポートしておくことで、複数台の測定器に同じ内容を設定することができます。

- 1 1 台目の測定器で「すぐ使うには」の「測定器設定を行う」(P.8) を実行する
- 2 「測定器に設定後に設定ファイルを保存」にチェックを入れて、「測定器に設定」ボタンをクリックします。
- 3 測定器への設定完了後に、「測定後設定ファイルを保存」のダイアログボックスが表示されるので保存先を選択し、任意の名前を付けて保存する
- 4 1 台目の測定器との通信を終了する

- 5 2 台目の測定器との通信を開始します。

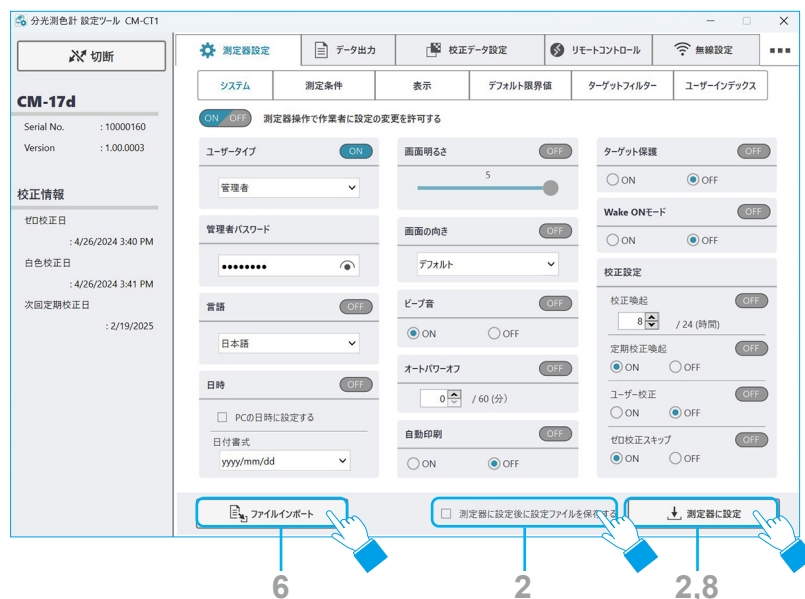
- 6 「ファイルインポート」ボタンをクリックします。

- 7 「測定器設定ファイルを選択」のダイアログボックスが表示されるので、3 で保存したファイルを選択します。

- 8 「測定器に設定」ボタンをクリックします。

- 9 2 台目の測定器との通信を終了します。
さらに他の測定器にも同じ測定条件を入力したい場合には 5 ～ 9 を繰り返す。

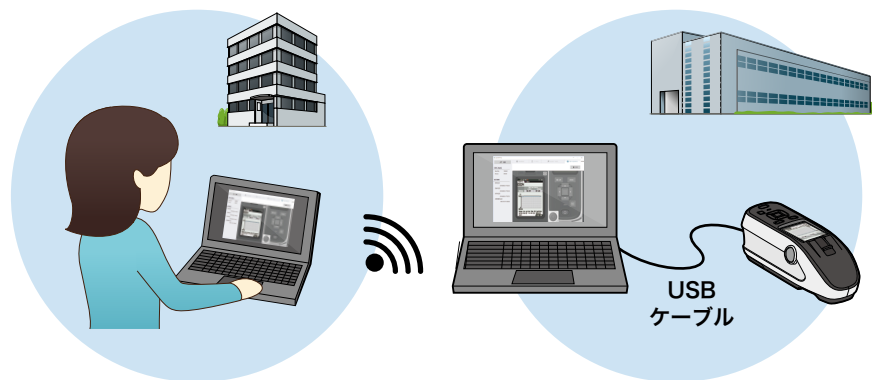
メモ 測定器は同じタイプである必要があります。
この機能を用いてある機種に適用した内容を他の機種に適用させることやその逆についてもできません。



さらに使いこなすには (つづき)

リモートコントロールでできること

CM-CT1 を起動させているコンピューターと他のコンピューターをネットワークで接続することで、離れた場所から CM-26dG シリーズ、CM-25cG, または CM-M6 のキー操作相当の動作をさせることができます。



社内ネットワークにおける操作の一例を記載します。

メモ リモートデスクトップ接続を使用できる OS は限られています。対象 OS につきましては、Microsoft のホームページにて確認してください。
また、リモートデスクトップの詳細な使い方については、Microsoft のホームページをご覧ください。

1 CM-CT1 を「リモートコントロール」接続の状態にします。

2 他のコンピューターからリモートデスクトップ接続を開始します。
事前に CM-CT1 がインストールされているコンピューターはリモート接続を有効な状態にしておいてください。

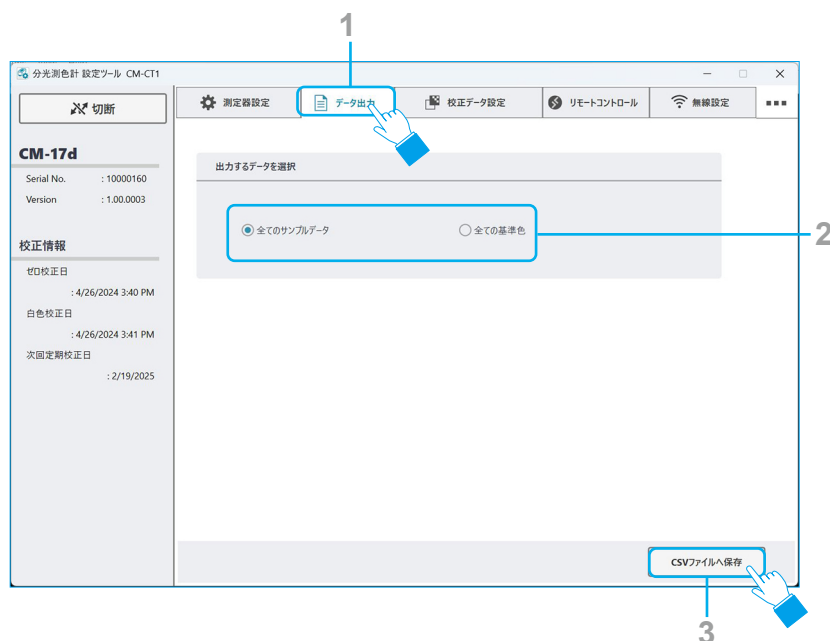
3 CM-CT1 を操作します。
離れた場所にあるコンピューター画面上に、CM-CT1 が立ち上がっている画面が表示されますので通常のマウス操作にて CM-CT1 を操作してください。離れた場所にある測定器のキー操作相当をリアルタイムに行うことができます。

さらに使いこなすには (つづき)

データ出力でできること

測定器に記録されているデータの測定反射率と光沢値 (CM-26dG、CM-25cG のみ) を一括で CSV ファイルに保存することができます。

- 1 「データ出力」タブを選択します。
- 2 「全てのサンプルデータ」もしくは「全ての基準色」のどちらかを選択します。
- 3 「CSV ファイルへ保存」ボタンをクリックします。



- 4 「CSV ファイル出力」ダイアログボックスが表示されるので、保存先を選択し、ファイル名を入力し保存します。

出力されるデータフォーマット

目録表示 (K33)												全てのサンプル													
ファイル	ホーム	挿入	編集	ページレイアウト	数式	データ	校閲	表示	ヘルプ	Acrobat	実行したい作業を入力してください														
K33																									
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	AO	AP	AQ	AR	AS	AT	AU							
1	データ名	測定日時	測定モード	UV条件	正反射光処理	グループ名	360[nm]	370[nm]	380[nm]	390[nm]	400[nm]	410[nm]	420[nm]	430[nm]	440[nm]	450[nm]	460[nm]	470[nm]	480[nm]	490[nm]					
2	Sample0001	2018/3/3 10:00	SAV	光沢のみ	UV 100%	SCE	GLOSS	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---					
3	Sample0002	2018/3/3 10:00	SAV	色と光沢	UV 0%	SCE	SCE	8.54	8.54	8.54	8.54	2	2	2	2	2	2	2	2	2					
4	Sample0003	2018/3/3 10:00	MAV	色のみ	UV 0%	SCI + SCE	SCI	5.99	5.99	5.99	5.99	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	2.44	---					
5	Sample0003	2018/3/3 10:00	MAV	色のみ	UV 0%	SCI + SCE	SCE	3.12	3.12	3.12	3.12	18.61	18.92	18.92	18.92	18.92	18.92	18.92	18.92	---					
6	Sample0004	2018/3/3 10:00	SAV	色と光沢	UV 100%	SCI	SCI	3.12	3.12	3.12	3.12	18.61	18.92	18.92	18.92	18.92	18.92	18.92	18.92	50.03					
7	Sample0005	2018/3/3 10:00	MAV	色のみ	UV 0%	SCE	SCE	1.33	1.33	1.33	1.33	64.59	66.85	66.85	66.85	66.85	66.85	66.85	66.85	---					
8	Sample0006	2018/3/3 10:00	MAV	オパシディ	UV 100%	SCE	WHITE	12.48	12.48	12.48	12.48	2.97	2.97	2.95	2.95	2.95	2.95	2.95	2.95	---					
9	Sample0006	2018/3/3 10:00	MAV	オパシディ	UV 100%	SCE	BLACK	2.73	2.73	2.73	2.73	70.76	71.64	71.64	71.64	71.64	71.64	71.64	71.64	---					
10	Sample0007	2018/3/3 10:00	MAV	光沢のみ	UV 100%	SCI	GLOSS	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	50.06					

メモ L*a*b* 値などの色彩値をコンピューターへエクスポートしたい場合は、CM-26dG シリーズ別売付属のソフトウェア SpectraMagic NX をご購入頂きますようお願い致します。

白色校正板、光沢校正板を新しく購入したら

新規に白色校正板や光沢校正板をご購入頂いた場合には、必ずこの作業を実行してから、測定してください。

- 1 「校正データ設定」タブを選択する。
- 2 新規校正板に同梱されていた CD-R をコンピューターにセットする。
- 3 「参照」ボタンをクリックすると、「校正板データファイル」ダイアログが表示されるので、2 の場所から拡張子が「cwm」のファイル(白色校正板データ)を選択する。
- 4 再度「参照」ボタンをクリックして 2 の場所から拡張子が「gum」のファイル(光沢校正板データ)を選択する (CM-26dG、CM-25cG のみ)。



- 5 「測定器に設定」ボタンをクリックする。

メモ 測定器に設定後は左側に表示されている「測定器に設定されている校正板データ」の内容も新しいデータに変更されます。

エラー内容と対処方法について

エラー No.	エラー内容	確認してください	実行してください
1	測定器設定の取得に失敗しました。	A) 測定器の電源が OFF になっていませんか？ B) USB 通信の場合： USB ケーブルはしっかり接続されていますか？ C) USB 通信の場合： USB ケーブルが断線していませんか？ D) Bluetooth 通信の場合： Bluetooth 接続が切れていませんか？ E) 他のアプリケーションが CM-26dG シリーズと接続されていませんか？	A) 測定器の電源を ON にしてください。 B) 測定器とコンピューターをしっかりと接続してください。 C) USB ケーブルを交換してください。 D) Bluetooth 接続を実行してください。 E) 他のアプリケーションと測定器との通信を切断してください。
2	測定器設定の適用に失敗しました。		
3	測定データ取得に失敗しました。		
4	リモートコントロールに失敗しました。		
5	測定器との通信に失敗しました。		
6	データ出力に失敗しました。		
7	校正板データの設定に失敗しました		
8	校正板データファイルの読み込みに失敗しました。cwm ファイルと cws ファイル、もしくは gum ファイルと gus ファイルが同じフォルダーにあることを確認してください。	cwm ファイルと cws ファイルは同じフォルダーに入っていますか？ gum ファイルと gus ファイルは同じフォルダーに入っていますか？	白色校正板データを変更したい場合は cwm ファイルと cws ファイルを同じフォルダーに入れてください。光沢校正板データを変更したい場合は gum ファイルと gus ファイルを同じフォルダーに入れてください。
9	校正板データファイルの読み込みに失敗しました。cwm ファイルと cws ファイルが同じフォルダーにあることを確認してください。	cwm ファイルと cws ファイルは同じフォルダーに入っていますか？	
10	校正板データファイルの読み込みに失敗しました。ファイルフォーマットに誤りがあります。	—	校正データファイルが壊れている可能性があります。校正板のシリアルナンバーをご用意頂き、測定器に同梱の「各種サービスのご案内」に記載の営業所までお問合せください。
11	選択したファイルが間違っています。お使いの測定器専用のファイルを選択してください。	正しい校正板の校正データを選択していますか？	選択したファイル名に記載されているシリアルナンバーが任意の校正板に記載されているシリアルナンバーと一致していることを確認してください。
12	設定ファイルの読み込みに失敗しました。ファイルフォーマットに誤りがあります。	新しいアプリケーションで作成した設定ファイルを古いアプリケーションで読み込もうとしていませんか？ 設定ファイルを開いて内容を変更していませんか？	新しいアプリケーションをご利用ください。 ファイルフォーマットが壊れている可能性があります。新たに設定ファイルをエクスポートしてください。
13	測定器にデータが保存されていません。	測定器にデータが保存されていますか？	測定器にデータが保存されていることを確認してください。
14	ファイルの保存に失敗しました。保存場所を確かめてください。	保存先が削除されていませんか？ 同名のファイルが開いていませんか？	存在するフォルダーを選択してください。 同名のファイルを閉じてから、再度ファイルの保存を実行してください。

CM-CT1
を起動させて再接続してください。

エラー No.	エラー内容	確認してください	実行してください
15	本ソフトウェアでは非対応の項目が存在いたします。 下記項目を初期値に設定しました。 ・項目 a (a: 非対応の項目名称)	CM-CT1 は最新バージョンをお使いですか？	Web サイト (https://www.konicaminolta.jp/instruments/support/download/color/index.html) より最新版をダウンロードしてご使用ください。
16	この測定器のバージョンは下記機能をサポートしていません。 設定するにはファームウェアをアップデートして下さい。 未設定の項目 ・XXXX:YYYY	—	ファームウェアのアップデートを希望される場合には、CM-26dG シリーズに同梱の「各種サービスのご案内」に記載のお問い合わせ先までご連絡ください。
17	この CM-26dG シリーズ測定器には蛍光校正係数が登録されていないため、UV Control を設定することができません。 UV Control を設定するには、測定器に蛍光校正係数を登録して下さい。	CM-26dG シリーズに蛍光校正係数を設定しましたか？	色彩管理ソフトウェア SpectraMagic NX2 (Ver. 1.2 以降) より、蛍光校正係数を CM-26dG シリーズに設定してください。



KONICA MINOLTA